テーマ「自然とのかかわり」

身近に存在する四季折々の生き物や植物等と出会う中で、季節の移り変わりやそれに伴う動植物の成長や変化を知る。

①「田んぼの活動」

「培養土は入れなくてもいいの？」

5月、今年度も「田んぼやりたい」と話す子どもたちと、田植えに向けて話し合いを行いました。年長の子達は、昨年度の田んぼの活動を思い出し、「田んぼが臭くなった」「培養土を入れたからじゃない？」と疑問を抱きました。

そこで、毎年稲の苗をもらっている青森の米農家の方とオンラインで話をしました。農家の方に「培養土は入れなくても良いの？」と聞くと、「培養土はいれなくても稲が育つよ」と教えてもらい、今年度は「黒土」「赤玉土」「鹿沼土」の３種類を使って田んぼ作りをすることになりました。

田んぼの土作り・田植え

田んぼの土作りでは、大きな土の袋を運んだり、トロぶねに土を入れたりしているうちに、「黒土が一番多いんだよね。」「赤玉土は２番目」「鹿沼土は少しで良い」といった声が聞かれ、自分たちで体験する中で、土の配合を理解しているようでした。また、土作りは土と水を混ぜて行うので、土を混ぜる工程を楽しむ姿が多く見られました。土の感触を手足で存分に楽しんだり、始めは恐る恐るだった子達もいつの間にかトロぶねの中に入って泥だらけになったりしていました。

田植えでは、「ママと一緒にできたのが楽しかった」「一年生に会えて嬉しかった。」と感想を話していました。「誰々と一緒にやったから」と一緒に田植えをした人のことを話す姿がありました。

田んぼの生長を見守って

田植えを行った後、子どもたちは、園庭に出る度に田んぼの稲の生長を見守っていました。Hくんは、「不思議な色になっている！」「お米黒くなっちゃうかも！」と心配そうにしている姿がありました。今年度も猛暑が続いたため、太陽の日が当たるところはどんどん稲の色が茶色くなっていきました。

稲の苗をもらった米農家の方にも「稲が茶色くなってきた」と伝えると、「もしかすると、暑すぎて稲が疲れちゃったのかもしれないね。」と話がありました。

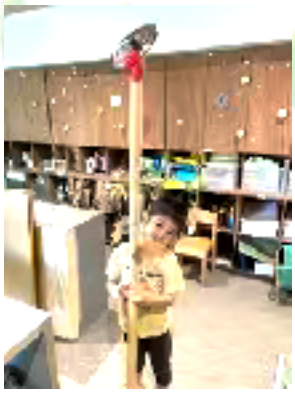
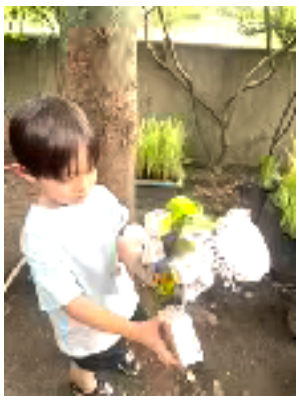
毎年、田んぼの活動をやっていることで、田んぼのちょっとした変化や異変に気づく子ども達の姿がありました。そして、"わからないことは詳しい人に聞くと良い"ということを感じているように思います。

カカシ作り

8月、稲が茶色くなってきたことで、保育者が「何で茶色になったんだと思う？」と子どもたちに問いかけたところ、「ネズミが食べたからじゃない？」という意見が出ました。そこで、ネズミを退治するためにカカシを作ることになりました。関心のある子どもたちが集まって、カカシの設計図を作りました。Kくんは、ネズミが怖がるように「怖いカカシを作る」と言って、目が三つあるカカシを描いて作りました。

また、田んぼの活動において、『イネの本』という稲の育て方が載っている絵本を読んでいました。その本を読んだ時に「米を狙うスズメに注意」と書いてありました。それを見つけたHくんは、「クラッカーを作って驚かせよう！」と話し、紙コップと輪ゴムを使ってクラッカーを作りました。さらに、スズメ対策として、「水風船を仕掛けたら水がかかって、驚いて逃げるんじゃない？」と考えていました。そして、水風船を取り付けたカカシを田んぼの前に設置しました。

数日経った頃、水風船が割れていることに気づき、「スズメが来たんだ」と話していました。

収穫・脱穀・籾摺り

10月の半ば、稲の収穫を行いました。そこから脱穀や籾摺りを行いました。今年度は。実のなった米が少なく、脱穀は一粒ずつ手で取るという作業になりました。さらに、茶色くなっている米は取り除いていきました。普段、折り紙や塗り絵など、手先を使って遊ぶことが好きな子どもたちが興味を持ち、「楽しい！」「明日もやりたい」と言って、脱穀や籾摺り、精米に夢中で取り組む姿が見られました。

お米会

今年度も「お米会」を行いました。採れた米が少なかったので、どのように食べるかを話し合いました。「自分たちの作ったお米だけじゃないと意味がない」「採れた米が少ないから他の米も必要。」「種類の違う米を混ぜるのは嫌」など色々な意見が出て、何日も話し合いが続きました。そして、「収穫した米」「新潟の米」「青森の農家からもらった米」の３種類を食べ比べすることになりました。

お米会当日は、Kくんが「米の作り方」を伝えました。

振り返り

・田んぼ作りをしたことがある年上の子どもたちが今年はどんな米作りをしようかと、年長児が中心になって主体的に楽しそうに活動に取り組んでいる姿を見て、年少児は初めての米作りに期待感を持ち、年上の子どもたちの知識や考えに触れながら積極的に参加していたのではないかと思う。

・友だち、保育者、米農家の方、保護者、卒園児など様々な人と出会い関わりながら、一緒に米作りを進めていく嬉しさや楽しさを感じていた姿が印象的で、米作りの活動を通して人と関わる面白さを感じられたのではないかと思う。

・家庭でも保護者と一緒に土や虫について調べたり、保護者も田植えや稲刈り、米の試食に参加するなどして、家庭とも連携したことで子どもたちの興味や関心が継続したのではないかと思う。

②コッコロ・フィラーレ　「土の感触」

異なる土の感触を味わって

子どもたちの今の遊びが、より深まるように保育者が遊びの提案をする「コッコロ・フィラーレ」という行事があります。今年度は、子どもたちが水や粘土に触れることを楽しんでいる姿があったので、今年「感触」を楽しめるコーナーを用意しました。

一つ目は「土」の感触を味わえるコーナーです。田んぼの活動で使った土をもとに「黒土」「赤玉土」「荒木田土」の３種類を用意しました。「黒土はカチカチ」「荒木田土はふわふわ」といったように土の種類によって違った感触を言葉で表現していました。また、足で踏んだり、全身泥だらけになったりして、土の感触を存分に味わいました。

色々な素材の感触に触れて

２つ目は「色々な感触が楽しめる」コーナーです。綿や、片栗粉、寒天、風船、足ツボなど身近にあるあらゆる素材を出してみました。

寒天は「冷たい」「気持ちいい」「ぐちゃぐちゃになってきた」など感じたことを話す姿がありました。また、片栗粉を水に溶いたものは、始めは恐る恐るだったものの、大人が楽しそうに遊んでいる姿を見て、触りにいっていました。

保護者は手伝いとしてコーナーに入っていたため、「子どもたちはこんな風に遊ぶのか」「子どもたちの思いもよらない発想に驚かされた。」など子どもたちの発想の豊かさを感じている方もいました。

振り返り

・普段から園庭で泥に触れたり、部屋では粘土に触れたり、田んぼの活動に参加したりしたこともあってか、土に触れるのを嫌がる子があまりいなかった。

・色々な感触を味わうコーナーでは、子どもたちが表現した言葉を書き留めていった。保育者と保護者が子どもたちが考える世界を感じる経験となったと思う。また、子どもたちが五感を使って遊ぶことで、「私はこう感じる」と、モノと向き合い、自分自身と向き合う時間になるのだと思う。

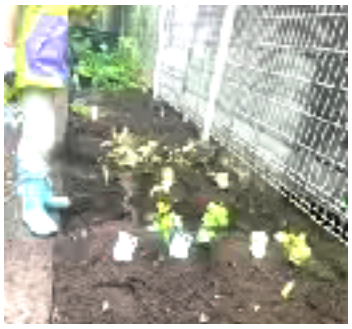
③種まきの会

４月　土作り・種まき

４月の終わり、園庭の花壇に夏野菜のゴーヤやトマト、花は朝顔、マリーゴールドなどを植えました。種や苗を植える前には、花壇の土を掘り起こしたり、腐葉土を入れたりして土作りを行いました。

土を掘り起こしていると、ミミズやダンゴムシ、幼虫などが見つかり、虫が好きな子達は虫を捕まえたり、虫籠に入れて飼育しようとする姿がありました。

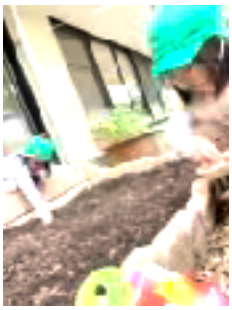
また、毎回「種まきの会」に参加してくれる子は、自分でトマトの種を用意していました。自分で植えることをとても楽しみにしており、植えてからの生長を楽しみに見ていました。



10月・11月　土作りと種まき

10月は土作りを行いました。地域の「下北園藝部」の方が手伝ってくれ、枯れた植物を抜いたり、花壇の土を掘り起こしたりしました。

11月はチューリップやヒヤシンス、ビオラ、カブ、など春に咲く花を中心に植えました。「いつ咲くのかな？」と楽しみにしている様子がありました。



振り返り

・「種まきの会」は土曜日に行なっているが、参加した子たちは、その後の園生活でも植物の生長を楽しみにしている姿があった。また、保護者と参加するため、保護者も植物の生長を気にかけていた。さらに、保護者が「園庭に入るの初めてです！」と嬉しそうに話す姿もあったので。園庭の様子を知る機会にもなっていた。

・種を植えることも楽しみながら、虫と出会う面白さも感じている姿が見られた。

・「種まきの会」を定期的に行うことで、地域の「下北園藝部」と繋がり、交流できる機会となっている。